

## ●普段から災害に対する備えを

### 家の内外を点検整備

屋根やアンテナの破損など、いざという時に備えて、家屋や周辺の点検整備をしましょう。



### 非常持ち出し品・備蓄品を準備する

普段から、非常持ち出し品・備蓄品(14ページ参照)の事前準備をしておきましょう。



## ●早めの避難

### 逃げ遅れで被害が拡大

過去の大きな災害では、被害が拡大した要因のひとつに「逃げ遅れ」が指摘されています。「まだ大丈夫」ではなく、「もしかしたら」と考えて早めに避難をしましょう。

## ●避難について

### 立ち退き避難

避難については、徒歩による「立ち退き避難」が基本です。普段から避難先を決めておき、早めに行動しましょう。



### 避 難 先

指定緊急避難場所  
兼 指定避難所(基幹)  
(詳細は裏表紙)

緊急的に安全を確保する避難場所はどこかを確認しましょう。



親せき・知人宅  
・宿泊施設

安全な場所にある親せきや知人宅、ホテルなどの宿泊施設も避難先として検討しましょう。



### 在宅避難

自宅が以下の条件に当てはまる場合は、在宅避難も可能になります。



### 在宅避難の条件

- ①地震の場合、自宅や近隣に倒壊や火災の危険性がない。
- ②大雨・洪水の場合、自宅が浸水・土砂災害の危険エリアに入っていない。
- ③想定浸水深より住んでいる場所が高い。
- ④水が引くまでの間、備蓄品で過ごせる。

※地震による自宅の倒壊や火災、土砂災害の危険がある区域では原則、立ち退き避難になります。

## ●避難するときの心得

安全に避難するため、まずハザードマップ上に避難経路を想定し記入してみること。そして実際に避難経路を歩いてみて、危険がないか確認しておくことが重要です。普段の備えがいざという時に役立ちます。

### 呼びかけに注意

災害が予想される時は、警察や行政などの呼びかけに注意しましょう。



### 危険な場所へ近づかない!

大雨の時に、河川などの様子を見に行くことは大変危険なので、絶対にやめましょう。



### 避難時のこと

避難時には、2次災害防止のため、ブレーカーやガスの元栓を閉めること。また、親せきや知人に避難先を連絡しましょう。



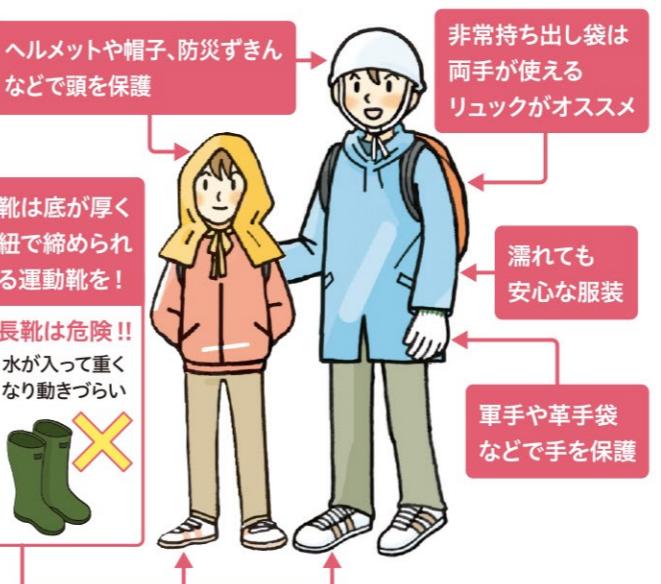
### 車で避難する場合の注意

川沿いの道路や水路の近くなど「浸水リスク」のある場所は通らないようにしましょう。



### 避難時の服装

長袖・長ズボン、動きやすい服装で避難しましょう。



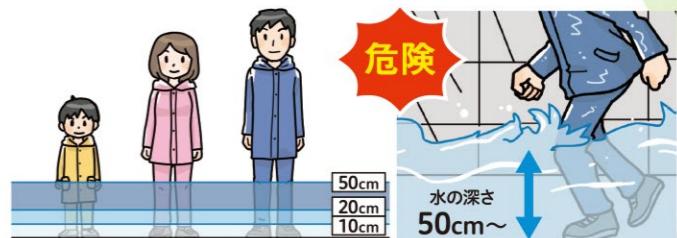
### 避難が遅れたら…

逃げ遅れたときは、近くの丈夫な建物のできるだけ高い所に逃げましょう。



### 歩ける深さに注意！

歩ける水深は、ひざ下くらい(約50cm)までと言われています。流れが速い時は10cmでも危険です。



子どもは水深が20cm以上になると危険！

### 足もとに要注意！

浸水した道は濁っていて足元がよく見えません。長い棒や傘などで地面をよく確認しながら避難しましょう。

